

9月8日ゼミは開催します

当日は会場の都合で、9月7日（土）ではなく、8日（日）となります。

10月に東京国立博物館の見学

10月19日に、上野の東京国立博物館を見学します。概要は下記の通りです。

参加希望の方は、9月ゼミの受付でご記名願います。

<東博見学概要>

- 1、見学日時： 10月19日（土）14時～16時の2時間ぐらい。
- 2、見学場所：
ア 東洋館と法隆寺宝物館—勝木氏説明
イ 平成館特別展「はにわ」
- 3、集合場所：14時東洋館入口（博物館入口を入れて右奥）
- 4、料金：シニアは無料（但し、特別展「はにわ」の料金は不明）
- 5、当日は現地集合・現地解散です。
- 6、担当幹事：青柳会員・竹萬会員・木山会員（メールアドレス）j-kiyama@jcom.home.ne.jp 以上。

西アジアとは何か（（統一と分裂 其の三））

—9月8日ゼミ紹介文—山腰 直仁会員記
荻生徂徠は「学問は歴史に極まり候事に御座候」と言ったという。その歴史、世界の歴史は世界5大陸のうち、殆どが一番大きいユーラシア大陸で展開した。4大文明の発祥、西洋・東洋の存在など。しかし中洋はどうなっているのか、中洋という言葉すらもない。西アジアとは何か、西アジアはまさに中洋に存在する。しかし西アジアとは何かと問われても、皆さんピンとこないと思います。他の地域、西洋なら、ギリシャ・ローマから始まる一つのまとまった地域を思い浮かべ

るし、東洋といえば中国を中心とした幾つかの国々を思い浮かべるでしょう。しかし西アジアといわれてもなかなか一つのまとまった概念が思い浮かばない。

せいぜいイスラム教が広まった地域というところか。一つの地域として想起されるのは、そこに主要な民族・言語・宗教・共有する歴史・文化があることが考えられる。しかし西アジアにはそれが殆どない。トルコ人はトルコ語をしゃべり、アラブ人はアラブ語をしゃべり、イラン人はペルシャ語をしゃべる。気候も沿岸地域・メソポタミア地域の水に恵まれた地域と内陸部の乾燥地域という全く違った気候が存在する。

しかしこの地域にも統一国家が成立した。世界最初の世界帝国・アケメネスペルシャ王朝(BC 550年—BC 330年)、サーサーンペルシャ王朝 (AD 224年—651年)、アッバース朝 (750年—1258年)、オスマン帝国 (1299年—1922年) である。特にオスマン帝国時代は長い年月にわたり、パックスオトマニカという平和な時代を実現した。

古代の西アジアは、BC 3,500年前、謎の民族シュメール人による文字・農業を伴うメソポタミア文明という世界最古の文明が誕生した地域、世界をリードした地域であった。その後バビロニア・アッシリアによる統一を経て、最初の世界帝国ペルシャが誕生する。西洋ではローマ帝国が誕生し、両国の間で長年にわたる戦いが継続する。476年西ローマ帝国が滅亡するが、東ローマ帝国がビザンツ帝国として存続し、戦いは継続する。620年ムハンマドによるイスラム教が誕生し、イスラム勢力が急拡大する。イスラム勢力によりペルシャも滅ぼされ、西アジアはイスラム勢力が支配するところとなる。その後モンゴルの侵入と支配を経て、オスマン帝国が誕生する。1453年オスマン帝国によりビザンツ帝国〔東ローマ帝国〕が滅ぼされ、ローマ帝国との長い戦いは終了する。14—15世紀の西洋はルネサンスが始まり、暗黒の中世といわ

れるカトリック支配から人間性の自由・解放を求める文化運動が展開する。それはまさにルネサンス、古代への回帰・再生であるが、その文化資料は西洋には残っておらず、西アジアに保存されていた資料をアラビア語から逆翻訳して得たものであった。そしてそれは近代西洋の大航海時代に繋がる。近代になってオスマン帝国は衰退期に入る一方、ヨーロッパでは大航海時代が始まり、続いて産業革命が興り、近代的な技術力・資本力・軍事力を持った西欧勢力による帝国主義・植民地主義が世界に進出する時代になった。オスマン帝国はその流れに適応できず衰退が始まる。それは1683年オスマン帝国による第二次ウイーン包囲の失敗から始まった。一方、いち早く西欧に学び、強大な軍事力をもつにいたったロシアは、不凍港を求め南下政策を始める。黒海からボスポラス海峡・ダーダネルス海峡を経てエーゲ海に出るルートである。これには地中海にロシアが拠点を持つことを恐れたイギリス・フランスが介入し、オスマン帝国を支援しロシアを撤退させた。また一方では、フランス革命の影響を受け、各地で民族自立運動が起こる。ギリシャの独立運動ではイギリスはギリシャを支援し、オスマン帝国とは対立する。このように列強となった西欧諸国とロシアに挟まれ、近代化に遅れたオスマン帝国は領土を減らし衰退していく。オスマン帝国を滅亡に決定づけたのは第一次世界大戦である。ドイツ・オーストリア同盟国側についたオスマン帝国は 敗戦国となり、領土はバラバラになりイギリス・フランスの委任統治領になる。オスマン帝国は滅亡し、新たにアナトリア半島にトルコ共和国として自立することになる。オスマン帝国としても、近代化に改革を怠ったわけではない、統治機構や軍備等の改革を行った。しかし、立地条件が悪かった。日本にも当然西欧列強の脅威が及ぶが、極東という距離のある位置から、中国など植民地化に晒されている実情を見て、対策をたてる時間的余裕があった。そして何よりも周辺海に囲われているという立地条件が幸いし、明治維新という改革を行うことができた。西アジアは列強と直近の位置にあり、しかも陸続きという立地条件から、まともに帝国主義の影響を受けることになった。

近年、この地域は西アジアとはいわれず、中東といわれる。これはまさに帝国主義時代に作られた言葉である。19世紀ヨーロッパが国際政治の中心になると、バルカン半島以東のオスマン帝国の支配領域を指す

NEAR EAST 近東と中国・朝鮮・日本等、東の彼方を指す FAR EAST 極東という言葉が使われた。MIDDLE EAST 中東という言葉は1900年イギリスの将軍サー・トーマス・E・ゴードンの「中東の諸問題」という論文で名付けられた。続いてアメリカの海軍提督アルフレッド・T・マハンが1902年の論文において、第一次世界大戦で英軍が展開するペルシヤ湾周辺の部隊の戦略上重要な作戦領域を、パレスチナ・シリアを指す近東から区別するために中東という言葉を使った。逆に、第一次世界大戦後オスマン帝国が滅びトルコ共和国が誕生し、またバルカン半島の殆どの地域で民族が独立したことにより、近東という言葉は使われなくなった。一方、インド亜大陸周辺が中東と呼ばれてもおかしくはないが、イギリスの植民地感覚からインド亜大陸は中東に含まずインドと呼ばれた。即ち、近東・中東・極東という言葉は、ヨーロッパ列強が帝国主義時代の覇権を争う際の、紛争・問題地域という意味をこめられたヨーロッパ中心主義的な東方観で作られた言葉であった。

西アジアとは何か、それは古代では先進地域であったが、近代に入っては西の列強・特にイギリス（第二次世界大戦後はアメリカ）と 北の強国・ロシアに挟まれた地域である。そういう地域で他国の干渉を受けずに存立するには、それに対抗できる大国でなければならない。小国では独自の中立は許されない。さればとってどちらかの大国に接近すれば、もう片方の大国は敵となり干渉を受けるという難しいことになる。現在の西アジアは分裂・混乱の中にある。

西アジアの現在の国名では、以下の国々が存在する。
地中海沿岸の トルコ シリア ヨルダン レバノン イスラエル (パレスチナ)
北方の コーカサス三国 ジョージア アルメニア アゼルバイジャン、中央の イラク イラン 南方のアラビア半島諸国 サウジアラビア アラブ首長国連邦 カタール バーレーン オマーン イエメン (エジプト)

(エジプトは地理上ではアフリカだが、四方、海と砂漠で囲われており、唯一シナイ半島でユーラシア大陸に繋がり、古来より政治的・軍事的に西アジアと密接な関係があり、地政学的には西アジアに属すると考えた) (パレスチナは国家ではない) 以上

ゼミ会場と時間 13:15～16:50

- 1、全水道会館（水道橋駅）・中会議室（5階）
- 2、JR又は都営三田線水道橋駅下車徒歩2分
都営三田線水道橋駅はエレベータ使用可。
- 3、会場には12時30分から入場できます。

日本語の源流その3

—磐城 妙三郎会員記—

古代史ニュース No.329 への投稿『日本語の源流その2』で以下の仮説を紹介した。

1. 「環日本海諸語」と同様に「環日本海文化圏」の存在
 2. 縄文人は紀元前 13,000 から紀元前 7,000 年にかけてアムール川河口から樺太島、北海道を経て日本列島へ移住し、東北地方を中心に関東地方、北陸地方、九州地方へ拡散
 3. 紀元前 1,000 年前後に北九州から山陰地方にかけて中国的四声を備えた言語の渡来人がきて、縄文語と接触し、現在の関西方言の基となる弥生語が形成され、やがて畿内政治勢力の通用語となった。
- 環日本海諸語とは松本克己氏が提唱する「系統的孤立言語である日琉語、アイヌ語、朝鮮諸語およびギリヤーク（ニブフ）語が日本海を囲む環日本海地域に存在する」というものだ。また環日本海文化圏とは国連の環境計画から派生した「日本海学」（推進会議メンバー：伊藤俊太郎、小泉格、大塚和義ほか）において日本海を共有する圏域として学際的に研究する組織として日本、中国、韓国、ロシアが参画し 2000 年に発足した研究グループによって名付けられた名称だ。この文化圏で発見された約 1 万 2 千年前から約 4 千年前の遺跡から平底円筒型土器や珠状耳飾りおよびヒスイの玉製品が出土している。また住居跡も竪穴式構造で共通している。100 平方メートルをこえる大型建物を持つ集落跡も存在する。弥生語の形成については小泉保氏による仮説だ。縄文人の日本列島への移住ルートとして前回は北方ルートのみで、南方からのルートについては言及しなかったのが、今回あらためて追加しておきたい。まず、朝鮮半島と中国大陸の間にある渤海と黄海、その南に接続する東シナ海について見てみると、朝鮮半島の南岸および済州島と台湾を結ぶ範囲には大陸棚が張り出しており、その海水準は-100m である。したがって約 1 万 4 千年前までは大陸棚は陸地と

なっており、朝鮮半島も大陸の中にあった。また黄海と渤海の平均海水準はそれぞれ-40m、-20m であり、黄海は約 1 万年前、渤海は約 8 千年前までは最深部を除き陸地であったと推測されている。長江下流の河姆渡文化は遠く東シナ海まで範囲を広げ、黄河下流域の磁山文化と遼河流域の興隆窪文化や新樂文化は渤海湾で接していたはずである。1 万 4 千年前以降、海水準の上昇に伴い沿岸部の住民は内陸部や日本列島への移住を余儀なくされたのだろう。その頃までは朝鮮海峡や対馬海峡の水深は浅く海峡の幅も狭く、したがって対馬暖流の流入量も少なく海峡の横断は容易であったと考えられる。現在、日本列島の対岸の大陸側には南からシナ・チベット語族、その北から東にはアルタイ系のチュルク語族、モンゴル語族、ツングース語族が分布している。これらの言語系統には属さず、孤立言語とされる朝鮮語族は朝鮮半島に、日琉語族、アイヌ語を話すアイヌ民族が日本列島に分布している。約 1 万 4 千年前までは渤海・黄海と東シナ海の大陸棚は陸地であったと述べた。日琉祖語を話す集団の源郷はこの地にあったのではないだろうか。そして約 2 万年以降から琉球列島や日本列島まで拡大し、水没するとともに大陸にはこの言語集団が居なくなると考えられる。いや、水没後も渤海と黄海沿岸部にはまだ日琉祖語を話す集団が残っていて、彼らを含めて倭族とか倭人とか言われていたのかも知れない。またアイヌ祖語を話す集団はサハリンが源郷で、1 万 5 千年以上前にアムール川下流域の孤立言語とされるギリヤーク（ニブフ）語を話す集団がサハリンへ南下し、サハリンにいたアイヌ民族の祖先集団が北海道へ移住拡散したと考えられる。今まで解析された縄文人のミトコンドリア DNA では日本列島以外の現代人集団からほとんど見つからない特殊なハプログループが存在する。M7a と N9b で前者は琉球列島を含む関西以西の地域で顕著に分布し、後者は関東から北海道で多数分布する。M7a のサブグループ M7a1 が約 1 万 9 千年前に分岐し沖縄地方や西日本、関東に、M7a2 が約 1 万 7 千年前に分岐し関東、東北、北海道地方にそれぞれ分布する。N9b のサブグループでは N9b1、N9b2、N9b3、N9b4、N9b5 が約 1 万 4 千年～4 千年前の間に分岐し、北海道地方、東北、関東に分布する。一方、日本列島以外の現代人集団にも見つかる縄文人のハプログループでは M 系では M10、M8、D4、G、Z が、N 系では N9a、A、B、F がある。M10 はバイカル湖周辺のブ

リヤート人に多く見られ、日本では茨城県取手市の長妻遺跡の縄文人に多く見つかったが、現代日本人にはほとんど見られない。M8は中国の中原地域、D4は朝鮮半島と東北アジア地域、Gは中央アジア、モンゴル地域、ZはM8のサブグループでカムチャッカ半島の先住民、N9aは中国南部や台湾の先住民、Aは中央アジア、シベリア、アメリカ大陸の先住民、Bは東南アジア、オセアニアの先住民、Fは東南アジアの先住民にそれぞれ見つかる。このことからアジア大陸のほとんどすべての地域の後期旧石器人が日本列島に拡散または移住して縄文人集団として形成されたことが判る。以上のことから日琉祖語を話す集団にはハプログループ M7a 集団がいて、その源郷は渤海・黄海と考えられ南方ルートで、アイヌ祖語を話す集団にはハプログループ N9b 集団が居て、その源郷はサハリン(樺太島)であったと考えられ北方ルートでそれぞれ日本列島へ到達したと考えられる。証明のしようがない仮説であるとともに、否定する根拠もまた見当たらない。完。

10月6日(日)ゼミ・テーマ

神社の向きが示すヤマト王権の誕生

—槌田 鉄男会員—

○10月も会場の都合で第1土曜日ではなく、第1日曜日となります。 以上。